

第 64 回大会（一橋大学）プログラム

5月21日（土） 第1日目

<p>10：00 ワークショップ会場（1201）</p> <p>ワークショップ1『哲学教育を考える』 「全学教育」</p>	<p>研究発表 第1会場（1301）</p> <p>実践理性の自立とその限界 カント関心論の射程 大河内泰樹</p> <p>ヘーゲル判断論の人間論的解釈の試み 赤石憲昭</p> <p>詩人は数学者に似る ショーペンハウアー哲学の整合的理解に向けて 齊藤智志</p>	<p>研究発表 第2会場（1202）</p> <p>存在論的差異の現象学 メルロ＝ポンティに おける「否定性」と間接的存在論 杉本隆久</p> <p>視線の構造 自閉症児の対人恐怖と情動の間主観性の現象学 村上靖彦</p> <p>悪と超越 レヴィナスとリクールを中心に 中 真生</p>	<p>研究発表 第3会場（1304）</p> <p>数学の哲学における構造主義と圏論 齊藤 健</p> <p>要素命題の相互独立性と論理空間 中期ウィトゲンシュタインの『論考』に対する態度 林 大悟</p> <p>機能的還元と心的説明の妥当性 太田雅子</p>															
<p>12：00 委員会（1203） 委員会控え室（1204）</p>																		
<p>13：00 13：50 第57回総会（2201）</p>																		
<p>14：00</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 40%;">シンポジウム(2201)</td> <td style="width: 10%;">講演者</td> <td style="width: 20%;">阿部 謹也</td> <td style="width: 10%;">司会者</td> <td style="width: 10%;">野家 啓一</td> </tr> <tr> <td>「歴史認識と歴史叙述のあいだ」</td> <td>提題者</td> <td>鹿島 徹</td> <td></td> <td>服部 裕幸</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>一ノ瀬正樹</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				シンポジウム(2201)	講演者	阿部 謹也	司会者	野家 啓一	「歴史認識と歴史叙述のあいだ」	提題者	鹿島 徹		服部 裕幸			一ノ瀬正樹		
シンポジウム(2201)	講演者	阿部 謹也	司会者	野家 啓一														
「歴史認識と歴史叙述のあいだ」	提題者	鹿島 徹		服部 裕幸														
		一ノ瀬正樹																
<p>17：00 休憩（1101） 編集委員会（1203）</p>																		
<p>18：00 懇親会（一橋大学マーキュリータワー） （会費 6000円）</p> <p>20：00</p>																		

大会本部（1209）
 会員控室（1101）
 事務局室（1207）

5月22日(日) 第2日目

<p>10:00 ワークショップ会場(1201)</p> <p>ワークショップ2『哲学教育を考える』 「学部教育」</p>	<p>研究発表 第1会場(1301)</p> <p>カント『純粋理性批判』における実践的自由の問題 「純粋理性の基準」の射程をめぐって 平井雅人</p>	<p>研究発表 第2会場(1202)</p> <p>蓋然的推理における異種的な論拠の組合せ ランベルトのベルヌーイ批判 手代木陽</p>	<p>研究発表 第3会場(1304)</p> <p>出来事とはいかなる存在者か 伊佐敷隆弘</p>
<p>11:00</p> <p>ワークショップ3『哲学教育を考える』 「大学院教育」</p>	<p>「母語」を超えて翻訳する ベンヤミンとローゼンツヴァイクの翻訳概念 のポテンシャル 柿木伸之</p> <p>自己保存・共苦・憧れ ホルクハイマー宗教・神学論の再構成 紺野茂樹</p>	<p>自然化された認識論をめぐる状況とその批判 大谷 弘</p> <p>「ゆえに」と「ならば」 誤信念課題と規則遵守問題から 水本正晴</p>	<p>性的行為における規範的根拠 佐藤拓司</p> <p>ストラウドの不満足 超越論的論証を巡るストラウドの考察の批判 的検討 土屋陽介</p>
<p>12:00 委員会(1203) 委員会控え室(1204)</p>			
<p>13:00 ワークショップ会場(2201)</p> <p>ワークショップ4『哲学教育を考える』 「総括」</p>	<p>研究発表 第1会場(1301)</p> <p>空間・時間存在としての物 ヘーゲルを中心として 小林裕明</p> <p>生きた全体における個性の問題 ヘーゲル『1800年の体系断片』の一解釈 佐山圭司</p>		
<p>14:20~14:30 休憩(1101)</p>			
<p>14:30</p> <p>共同討議(2201) 「責任と人権」</p> <p>提題者 碓井 敏正 杉村 靖彦</p> <p>司会者 熊野 純彦</p>	<p>特別報告(2301) 「20世紀言語哲学の帰結と新展開」</p> <p>報告者 山田 友幸 コメンテーター 西山 佑司 司会者 野本 和幸</p>		
<p>16:30 終了</p>			

会場に変更がございます場合は、当日掲示いたします。